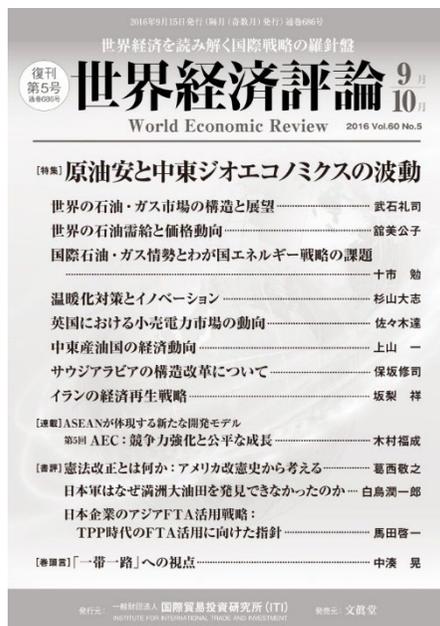


本論文は

世界経済評論 2016年9/10月号

(2016年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

トルコがイスラエル及びロシアとの関係を矢継ぎ早に修復し始め、混迷する中東情勢にかすかな希望が見えた矢先、イスタンブールの空港で爆破テロが発生した。その翌日、6月30日、株式会社 IHI が建設したイズミット大橋が開通し、日トルコ政府間で科学技術大学の設置協定も署名された。中東の平和と安定に貢献しようとするトルコとの絆を日本が深めることは重要だ。両国の歴史的な絆を描いた映画「海難1890」。安倍総理とエルドアン首相（現大統領）との再会への約束が歴史的な偶然も味方して実現し、映画誕生に大きな弾みをつけた。本稿ではクロノロジーをご紹介します。

2013年5月、トルコの首都アンカラ。安倍総理とエルドアン首相との初の首脳会談を控え、ある報道がトルコを駆け巡った。猪瀬東京都知事（当時）が2020年オリンピックの開催地としてイスタンブールはふさわしくないと発言したという報道だ。エルドアンは、筋金入りの政治家として知られており、首脳会談への影響が懸念されたが、安倍総理は見事な機転で対応した。安倍総理は共同記者会見の場で、「もしイスタンブールが五つの輪を射止めたら、私は誰よりも先に『イスタンブール万歳』とエルドアン首相を祝福したい」「もし東京が五つの輪を射止めたら、エルドアン首相に、誰よりも早く祝福していただきたい」とエルドアン首相との約束を明らかにし、エルドアンも笑みを浮かべていた。

2013年9月、ブエノスアイレス。イスタンブールとの最終決戦投票の末、2020年オリンピック・パラリンピックの開催地として東京が選ばれた。エルドアン首相は真っ先に安倍総理に駆け寄り、祝福。まさに約束を守ったのだ。実は、第1回投票では東京は1位、次いでイスタンブールとマドリッドが同票（26票）で並んでいた。もしマド

リッドが最終決戦投票に進んでいたなら、エルドアンは会場に残っていただろうか。歴史的な偶然も味方し、両首脳の絆がいつそう強まった。

2013年10月、イスタンブール。安倍総理は「次は、私が約束を果たす番」とトルコを半年で2度目となる異例の再訪問。エルドアンにとってイスタンブール市長時代以来の悲願であったボスポラス海峡横断地下鉄（マルマライ）の開通式への招待に応じたのだ。総理は、エルトゥールル号乗組員子孫及びテヘラン空港邦人救出機パイロット等関係者と面会し、一人一人と順番にトルコスタイルで抱擁の挨拶を交わした。そして、首脳会談ではエルトゥールル号事件とテヘラン邦人救出をテーマとする日トルコ合作映画について2015年公開に向けて両国政府が協力することで一致した。

2014年1月、東京。エルドアン首相は約10年間訪問していなかった日本を、2014年の最初の外遊先として選んだ。両首脳をはじめ日トルコの関係者が映画の制作資金について議論を詰め、映画はいよいよ実現に向けて動き始めた。

2015年11月、イスタンブール。エルドアン大統領は多忙にもかかわらず、自らが議長を務めるG20の前日に安倍総理とともに「海難1890」のプレミア上映会に参加した。翌12月、日本そしてトルコで映画は公開され、日本アカデミー賞10部門で受賞した。

本年6月「海難1890」のDVDが発売された。上映を見逃した方も、日トルコ両国の友情が逆境にめげず立ち向かう人々の強さにより育まれたことに思いを馳せてみてはいかがだろうか。

ひらいしんじ 経済産業省資金協力課長。

*文中、意見にわたる部分は筆者の私見であり、所属組織のものではありません。

日トルコ 友情の絆